

# 「確かな学力育成のための実践研究事業」への取組

益田市立益田東中学校

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

学び合い、学び続ける児童生徒の育成  
～互いのよさを認め合い、学ぶ喜びを実感できる生徒をめざして～

### (2) 主題設定の理由

本校は昨年度より3年間「確かな学力育成のための実践研究事業」研究推進校としての指定を受けた。(平成17年度～19年度 文部科学省指定)学力低下への危惧が声高に叫ばれている昨今、学力向上めざしての教育の在り方について研究を深めるよい機会を得たと考え、昨年度は主に「確かな学力」の核となる「基礎・基本」の確実な定着をめざし、研究実践に取り組んできた。

1年目の実践の成果と課題を把握するため、日々の教師の見取りの他、年度末に標準学力検査(CRT)、学習適応性検査(AAI)、学習と生活についての意識調査を行ったが、その結果、以下のような実態が浮かび上がってきた。

標準学力検査の5教科平均得点率は全国平均をやや上回るが、関心・意欲・態度の観点については、どの教科も全国平均より劣っていること。

自分の意見や考えを安心して表現し、他とかかわり合いながら学びを深めていこうとする力が十分に育成されていないこと。

与えられた課題には真面目に取り組むが、自ら課題を見付け、意欲的に学び続けようとする姿勢に欠けること。

「確かな学力」は、「知識」、「技能」に加え、「関心・意欲・態度」、「学び方」、「思考力・判断力」、「感性」、「表現力」、「課題発見・解決能力」で構成されるが、本校では、上記生徒の実態より、「関心・意欲・態度」つまり「学ぶ意欲」を高めることが重要課題であると考えた。そのためには、まず互いに認め合えるよりよい人間関係に支えられながら、安心して学べる学習環境づくりを推進していくことが必要である。その上に「わかる授業」に向けての教師の支援・指導を加えていくことで、生徒の学ぶ喜びと意欲を高め、最終的に確かな学力の向上と学び続けようとする生徒が育成できると考え、本主題、副主題を設定した。

### ( 3 ) 研究仮説

だれもが安心して学べる環境づくりを基盤とし、学習の過程で生徒同士が意見交換をしたり、互いに学び合える学習活動を効果的に取り入れたりすれば、生徒は多様な価値観や感じ方にふれ、他の学びのよさを認めながら自らの学びを深めていこうとするであろう。

個に応じたきめ細かな指導や生徒の知的好奇心を喚起する素材の教材化など、わかる授業をめざして指導方法や指導内容を工夫改善すれば、生徒は学ぶ喜びを実感し、進んで学び続けようとするであろう。

学校組織として「確かな学力育成」に取り組めるよう研究組織を見直し、益田小学校と連携して研究専門部を運営していけば、教員の同僚性や指導力の向上、児童・生徒への義務教育9年間を見通した支援が可能となり、本事業をさらに円滑に進めていくことができるであろう。

### ( 4 ) 研究内容

だれもが安心して自己表現でき、自分のよさや他者のよさを認め合える授業と人間関係づくり

よりよい学習環境づくり

- ・ 授業始めの黙想実施
- ・ だれもが安心して学べる温かい人間関係の構築(教師対生徒、生徒対生徒)  
ペア・グループ学習活動の効果的な取入れ

学ぶことが楽しいと実感できるわかる授業への工夫改善

個に応じたきめ細かな支援・指導の推進

生徒の興味・関心を高める指導内容の工夫改善

各研究専門部の活動推進(益田小学校と連携)

昨年度までの研究は学校組織として、全教員が研究に携わっていくという点が不十分であった。そのため、今年度より研究組織を見直し、新しく3つの専門部を益田小学校と共通して設けた。さらに各部の役割分担を明確にし、全員が協力して確かな学力向上のための研究実践を進めることができるよう配慮した。

- ・ 授業研究部の取組
- ・ 調査広報部の取組
- ・ 児童生徒支援部の取組

(5) 成果と課題の把握の手立て〔評価方法〕

各教科～ノート、ワークシート、ファイル、レポート、作品分析、技能テスト、自己評価、授業評価アンケート、観察

学校全体～学習や生活にかかわるアンケート、研究授業ビデオ分析、学力検査(CRT)、学習適応性検査(AAI)、自学ノートへの取組、保護者からの学校評価、教職員アンケート

(6) 研究構想図

